

美音の足元

世界中に知られた日本製ピアノのブランドといえばヤマハだ。そのヤマハの国内の工場では、年間約1万5千台のグランドピアノを製造し、ほぼ半数がアメリカなどに輸出されている。

そのヤマハ製グランドピアノの脚柱あしばしらを生産しているのが、北秋田市の内陸縦貫鉄道阿仁前田駅の裏手にある、桜庭木材株式会社だ。

昭和30年代ころまでは、ピアノの脚柱には北海道産の樺材が使われていた。しかし、次第に北海道の樺は枯渇していき、それに代わる材料として白羽の矢が立てられたのが東北のブナだった。それまでブナは、漢字で木偏に無と書くように、使い道のない無用の木と思われていたが、グランドピアノの重量を支える脚柱としては、ブナの堅牢な性質はうってつけだった。

今はヤマハグループの傘下になっている桜庭木材だが、元々は地元資本で阿仁森吉地方の天然秋田杉やブナの製材所であった。ブナ産地に立地する製材所として、同社は昭和30年代後半あたりからヤマハ向けの脚柱の生産を始め、昭和62年ころからは事実上ヤマハが国内で生産するグランドピアノの脚柱には、100%森吉産のブナが使われていた。

平成12年ころから国内の広葉樹林は環境保全指向となり、現在は森林資源が潤沢なヨーロッパからの輸入材が脚柱に用いられている。輸入材を使って脚柱を生産するのであれば、工場は港かヤマハの本社工場近くにあったほうが有利で、森吉という立地はむしろハンデになるのだが、これまでの実績と製造技術の蓄積もあり、引き続き同社が生産を担うことになったのだという。

重いピアノを支える脚柱には、木材以外の金属などの材料の使用も考えられるが、音の共鳴が命となるピアノでは、脚柱はやはりどうしても木でなければならぬのだとか。世界中で、今日も美しい音を奏でるピアノの脚柱が秋田でつくられていること、そして、それらのピアノの何台かを秋田生まれのブナ材が支えているのかと思うと、ちよつと誇らしい気持ちになる。

桜庭木材では、メセナ（企業による文化・芸術活動の支援）の一環として、2年に1回プロの音楽家を招き地元で無料のコンサートを開催している。さしずめ、「音の里帰り」といったところか

